

# 長崎救急医療白書 2015・2016

長崎地域の救急実態調査  
(平成27年4月～29年3月)



長 崎 市  
長崎実地救急医療連絡会

# ごあいさつ

長崎市長 田上 富久

このたび、長崎地域における「長崎救急医療白書2015・2016」の刊行にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

救急医療の現場に携わる方々の継続的なご協力と、長崎実地救急医療連絡会の皆様の専門的視点によるデータ分析等により、救急医療の実態を知るうえで非常に有意義な冊子を刊行することができました。今回の刊行は16冊目となり、平成4年に発足した長崎実地救急医療連絡会の皆様のご努力と熱意に、深く敬意を表する次第です。

近年、市民の意識の変化や高齢者の増加等に伴い、救急医療の需要は増大・多様化している状況にあり、長崎地域におきましても、救急搬送患者は年々増加しております。また、救急搬送患者のうち、高齢者の占める割合は高く、70歳以上の搬送者が全体の半数以上を占め、今後搬送者は増加すると考えられます。

長崎県では、2023年度までの6年間を計画期間とした「第7次長崎県医療計画」を平成30年3月に策定しており、その中で、救急医療の需要は、高齢化の進展や疾病構造の変化に伴い年々増加傾向にあるとして、救命率を向上させることを最終的な成果に掲げております。

長崎市におきましても、この医療計画を推進するため、関係者の皆様と協議を行い、地域の実情を反映した救急医療を始めとする医療供給体制の整備、充実に努めてまいります。

また、市民の救命率の向上を図るため、市有施設へのAED（自動体外式除細動器）の設置や救急サポートステーションの登録推進、中学生を対象にしたスクール救命サポーター育成事業などにも継続的に取り組んでおります。

今後とも、より一層充実した救急医療体制を確立し、維持していくために、さらなるご協力をお願い申し上げますとともに、長崎実地救急医療連絡会のますますのご活躍を祈念いたしまして巻頭の言葉といたします。

# 巻 頭 言

長崎市消防局長 平石 弘行

「長崎救急医療白書2015・2016」が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

この白書は、救急搬送傷病者の実態を詳細に分析し統計化されたものとして、長崎医療圏のみならず県下の救急医療施策はもとより、消防局の救急体制の充実強化を図るうえにおいても、貴重な資料となっております。

長崎救急医療白書の初版から今年で22年が経過いたしますが、これまで編さんにあられました長崎実地救急医療連絡会をはじめ、関係者皆様方のたゆみない熱意と御努力に深く敬意を表する次第でございます。

さて、近年、超高齢化社会の中、これに伴い救急出動件数は年々増加しており、長崎市消防局管内においても毎年過去の記録を更新している状況です。

国が発表した救急出動件数等の将来予測では、日本の人口が今後減少に推移するにもかかわらず、高齢化率の上昇により2035年頃まで出動件数は増加していくものと予測されており、搬送医療機関の選定や医療機関収容までの到着時間の課題への対策が県内でも急務となっております。

一方で、地域の病院前救護体制も重要であり、特にバイスタンダーによる応急手当は当市の重点的な取り組みの一つとして行っておりますが引き続き、地域、事業所、行政が連携し、応急手当の普及促進に努めるとともに、事業所等に対するAED設置の更なる普及についても取り組んでまいりたいと考えております。

今後も消防としての病院前救護体制の役割を十分に果たし、更なる充実に努めてまいりますので、医療関係機関の皆様におかれましては、救急救命士を含む救急隊員の資質向上のため、引き続き御指導と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、長崎実地救急医療連絡会をはじめ関係者皆様のますますの御発展と御活躍を祈念いたしまして、巻頭の言葉とさせていただきます。

# 目次

発刊に寄せて

## 【 1 】 長崎県版検証票（救急活動記録票）の概要

① 長崎県版検証票の構成	1
② 長崎県版検証票の運営	1
③ 運営に当たっての重要な取り決め事項	1
④ 確定診断、予後について	2
⑤ 病名コードと分類について	2

## 【 2 】 長崎市（地域）救急実態調査

① 地域背景	3
② 総合分析	
「1」回収率と内訳	4
「2」搬送患者の年齢分布	5
「3」疾患群別内訳	5
「4」転帰	6
③ 疾患群別詳細	7
④ C P A 症例	8
⑤ 高齢者について	9
⑥ 救急搬送発生場所について	11

## 【 3 】 長崎県の救急搬送概要

① 長崎県の背景	13
② 回収率と内訳	14
③ 疾患群別詳細	15
④ C P A 症例	16
⑤ 地域別転帰	17
= 内因性疾患 =	
「1」脳疾患	18
「2」循環器疾患	19
「3」呼吸器疾患	20
「4」消化器疾患	21
「5」内因性その他	22

= 外因性疾患 =

「1」外 傷 .....	23
「2」骨 折 .....	24
「3」外因性その他 .....	25

<b>【4】長崎県版検証表を用いた研究から（学会報告）</b> ～EFFECTS OF A TRAUMA CENTER ON MORTALITY IN A REGIONAL CITY IN JAPAN: A POPULATION BASED STUDY～ .....	27
<b>【5】長崎地域の救急搬送の将来予測</b> .....	33
<b>【6】長崎県版検証用返信票データ利用に関して</b> .....	39

後 記

## はじめに

長崎実地救急医療連絡会のもとで長崎地域の救急搬送データの集約、分析が初めて行われたのは平成4年でした。その後四半世紀がたち、搬送データは長崎県メディカルコントロール協議会の中で管理されるようになりつつあります。

それぞれの地域医療圏において人口・人口構成、地形、医療機関の分布・構成は異なっており、地域医療構想においては地域それぞれにふさわしい医療体制を地域で考え作っていくべきとされています。長崎県の救急車の搬送は年間5万件余りありますが、その90%以上において搬送された医療機関より傷病者の搬送後の転帰、手術の有無などの搬送データが報告され、集計されています。

まさしく自分たちの地域で自分たちの作ったデータであり、このデータを生かして今後の地域の救急体制を考えていくべきと考えます。

ぜひそれぞれの地域で活用されることを望みます。